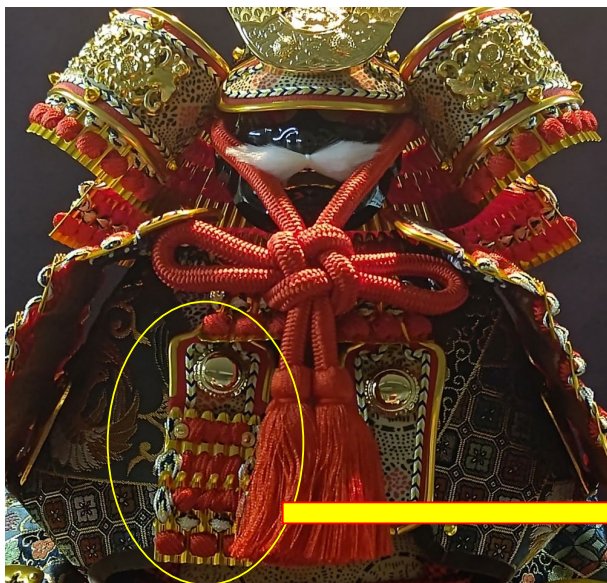


せんだんのいた
鎧の一部分の梅檀の板で

キーホルダーを作りますか？

梅檀の板とは鎧の右胸についている部品（武具）です。鎧は体を守る武具なので**お守り**になります！
この体験コーナーで行っていただくのは、小札（鎧の部品の板）の通し穴に糸を通す作業（威し）です。



おどし
威しとは

（糸をとおす）の「をとおす」が
「威し」の語源といわれています。

せんだんのいた
梅檀の板

※兜の忍びの緒と面頬（めんぼう）に隠れてますが右記の武具がついています。



梅檀キーホルダー原寸サイズ

体験キットの一例です。



所要時間
60分ほど

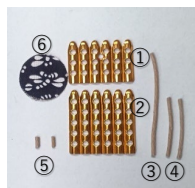
菱縫い、縦糸威し、耳糸威し

威し糸を通す順番（①菱縫い②縦糸威し③縦糸威し④耳糸威し）



- ④ 耳糸威し = 糸の表が表側に表が向くように威していきます。
- ② 縦糸威し = 糸の表が表側と後ろ側とも表に向くように威していきます。
- ③ 縦糸威し = 糸の表が表側に表が向くように威していきます。
- ① 菱縫い = 糸の表が表側と後ろ側とも表に向くように威していきます。

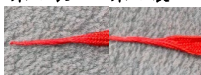
「梅檀の板」を用いた威し体験の説明



左記の部品をお渡し致します。

- ① 梅檀の板の上の小札（こざね）です。 ② 梅檀の板の下の小札（こざね）です。 ③ 紙紐、威しの手引き「一」で使用します。（※小札にも表と裏があります、表は「山なり」で裏は「谷なり」です）（②の板の下2段に行う「菱縫い」に挟みます。）
 - ④ 紙紐、威しの手引き「二」「三」で使用します。 ⑤ 紙紐、威しの手引き「四」で使用します。（左図の①②の横の穴に通す糸の間に挟みます。）（「耳糸」を同じ穴に通す時に糸が抜けにくい様に入れる紙紐です。）
 - ⑥ 蜻蛉（勝ち虫）柄のシールです（最後に留め具の金具を覆う際に使用します）。
- ※お渡し致しました袋に上記の部品が入っているかご確認ください。

糸の表 糸の裏



威し糸は小札の通し穴に通す際に通しやすいように「針先」を作っており、その針先の下部分が山なりになっている方が「糸の表」になります、谷のようにになっている方が「糸の裏」になります。

※威しの手引き「一」「二」「三」は常に糸の表が表を向くように、糸を通していきます。



糸を通す板（小札（こざね））にも表と裏があります、こちらも左記のように山なりになっている方が表で、谷のようにになっている方が裏になります。

通し穴に糸を通す際は、常に糸の表を通すようになさってくださいませ。

その際に糸を強く引っ張りすぎますと、糸が細くなってしまうので、強すぎず、かといって弱すぎず、良い加減で糸を通していくと綺麗に仕上がります。見本と同じくらいにするとよろしいと思われます。

※この穴は糸を通す穴ではありません。



左記の金具はこちらでお付けします。
変わった道具（はさみ）を使用します、もしもの事を考え、こちらで取り付けさせていただきます。



最後に留め具の金具を⑥の蜻蛉柄のシールで覆ってくださいませ。